

## 不思議に気づいた「泥、水、石鹸遊び」 出雲市立朝山幼稚園（島根県出雲市）

[3歳児]

子どもの「おもしろい」「ふしぎ」「どうして」という思いを保育者がしっかりと受けとめ、適切な援助をしながら子どもと共に保育を創りあげていけば、自分なりの考えを持って、心を弾ませて生活する子どもが育つであろうと考えた。そこで、子どもの気づきや思いから、子どもが自分なりに考え工夫しながら遊びを創り出していくための保育者の援助のあり方について実践を通して究明し主題に迫る。

子どもの様子	保育者の援助
<p style="text-align: right;">&lt; 5月中旬 &gt;</p> <p><b>【水や泥が気持ちいいな】</b> 全身を使って砂場遊びを楽しむ。 バケツに水を汲み、赤土に水をかけドロドロの感触を楽しむ。 「足が重くなった」「泥の靴だあ」「ぬるぬるして、滑るよ」「水をいっぱいにしよう」</p> <p><b>【赤土はぬるぬる、おもしろい】</b> たらいから水を汲む。 赤土山から水を流し、流れる様子を楽しむ。 「ぬるぬるがいっぱいになった」「つるつるだあ」 他のたらいに赤土を入れ、絵を描く。「水が赤くなった」「絵がかけるよ」 A児は、たらいの水を手で掬い、頭上に投げ「雨だー」と水の気持ちよさを表現する。</p> <p><b>【泡がいっぱい】</b> 子どもたちの遊びの中にお家ごっこが定着しつつある。 園庭にある小屋の中でお家ごっこをする。 A児は砂場で遊ぶ。 B児「私お姉さん！お料理するね」 C児「私は、お母さん！お家にいるわね」とじっとしている。 保育者「お母さんお仕事もってきたよ」 C児「はーい」とたらいの中の石鹸水に触れてみる。 「わぁー泡ができるよ」 A児がC児の声を聞いて、たらいの所へ来て一緒に泡遊びを楽しむ。「～洗濯、洗濯～」と5人で集まって楽しむようになった。 「泡がいっぱいになったよ」とゴシゴシ洗濯したり、絞ったり、干したり、また石鹸水に入れたりを繰り返し楽しむ。 (翌日) A児「泡の雨だ！」と手で泡を掬って投げる。「雪みたいだー」と飛び散る様子を見て、水と泡の違いに気づく。 水と泡で雨を降らすことを繰り返し楽しむ。</p> <p><b>【いいものみつけたよ】</b> B児、C児は、ペットボトルの中に洗濯遊びで使っていた布巾を入れ、腕から振り回して「洗濯機だよ」と水が出てこないことを楽しむ。(遠心力) B児が布巾の入ったペットボトルに泡や水を入れて回すだけでなく、雫が垂れることに気づき、水をたくさん入れ、持ち歩く。少しずつ出る水で地面に絵を描く。 C児も真似をしてペットボトルに水を入れて線路を描く。 水がなくなると水を入れて描くことを繰り返す。 「何で、描ける?」「面白い」と、B児が、「水がたくさんなら、ずっと描ける?」と思い、布巾をペットボトルから出す。しかし、水はすぐに流れ出てしまう。「なぜ??布巾が必要だ」と感じてB児は、また布巾を入れる。</p> <p><b>【泥と水って違うよ】</b> A児は、たらいの中をかき混ぜて泡をたくさん出すことを楽しむ。「ねえ、ねえ、音が違うよ。聴いとってよ」と水だけのたらいと石鹸の入っているたらいを交互に混ぜて見せる。</p>	<p>砂や泥での遊びを楽しませたいと思い、砂場道具を出す。赤土を集めることを楽しんでいるので、赤土での遊びを盛り上げようと考え、赤土山の近くに場作りしておく。 たらいに水を張り、赤土山の近くに置く。 A児、C児を誘って遊ぶ。 A児の水への興味が高まってきたので、水遊びができるよう大きめのたらいを出す。</p> <p>お家ごっこでの友だちとの触れ合いを大切にしながら、水の遊びへとつなげるために、子どもの遊びの様子を見守る。 A児は、水遊びが好きなこと、C児は、お母さん役であることから、共に楽しめる遊びを考え、石鹸水の入ったたらいを用意する。 洗濯遊びにもつながると考え布巾も数枚用意する。 たらいとは別に泡を流すためにバケツに水を入れて用意する。バケツがあることを知らせ、手や布巾を洗うことにも使って良いことを伝える。 A児の気づきに共感し、一緒に雪を降らせることを楽しむ。</p> <p>ペットボトルの上半分に紐を付けたもの(新しい教材)を出しておく。 水が垂れ、絵が描けることの発見を大いに認め、共感する。一緒に試したりしながら、認め、子どもたちが充実感や意欲を持つようにする。</p> <p>A児の発見をしっかり受け止め、一緒に試してみる。</p>
<p style="text-align: right;">&lt; 6月上旬 &gt;</p>   	  

### みどころ

3歳児が、泥、水、泡という素材に触れ、様々な感覚を働かせて、感じたことを表したり見たててイメージした遊びをしたりして、主体的に楽しんでいます。保育者が3歳児の興味や発達など実態に応じて環境を設定し、一緒に遊びを楽しみながら援助を重ねています。こうした環境に安定してかわることで、3歳児なりに様々なことを感じ、思いや気付き、発想を表して遊びを楽しむことができ、豊かな感性が育まれることが期待できます。